

多功城主多功宗朝が出仕停止を命じられる。

〔1240（延応2）年3月12日〕

当時20歳の若武者であった多功宗朝は、1220年に宇都宮家当主頼綱の子ども、つまり初代上三川城主となる横田頼業の24歳も離れた弟として生まれ、後に1248年に築かれた多功城の初代城主となりました。皆さんもご存知のとおり、多功家は1597年の宇都宮家改易まで多功城主を務め、宗朝の三男の朝定は下野市の児山城主となるなど繁栄をしました。



多功氏一族の墓は、多功の見性寺にあります。
(写真：多功城主多功家累代の墓)

宗朝が生まれた宇都宮氏は、鎌倉幕府でも有力な御家人でした。このことから、宇都宮氏の一族は、自分の領地の経営をし、武芸の鍛錬に励む一方で、鎌倉幕府から命じられる仕事も行なっていました。この時代の政治・社会の出来事が記されている、鎌倉幕府がつくった歴史書の「吾妻鏡」には、幕府の行事に参加している宗朝の名前も見つけることができます。初めて宗朝の名前が登場するのは彼が18

歳の1238年、鎌倉幕府四代将軍九条頼経が鎌倉より京都に行く際の随行者としてです。その後も1240年1月の院飯の儀（正月に行なわれた儀式）、続く42年には将軍家の随行者として2回、56年には将軍の鶴岡八幡宮参拝に随行するなど、43歳の1263年まで数々の幕府の公式行事に参加していました。

一方で、宗朝の性格をあらわすようなエピソードも多数残されています。今回の題名にあるように、1240年には当番を無断欠勤した理由で、塩谷泰朝・結城朝村ら五人とともに処分されています。欠勤の理由は不明ですが、この頃、幕府は関東の御家人に対し、贅沢をやめ節約をするように命じたり、決まりを破った者を厳しく罰する命令を出すなど、武士達の引き締めを図っていた時期に重なり、処分されたと考えられています。また1261年にも鹿を食べたことを理由に、鎌倉幕府の重要儀式の一つ鶴岡八幡宮放生会（生き物を山野に放ち天下泰平を祈願する儀式）の随行を断っています。このような、エピソードから武芸で名高い多功家の祖である宗朝は、豪放な性格であったことが窺えるのではないのでしょうか。

健康の文字が嬉しい親ゆずり

石田 高橋 世津

きのうまで裏山にいた床柱

石田 前原 秀雄

鳴き声を土産に曾孫やってくる

上蒲生 鶴見 敏子

鈍行の旅ののどかな訛り聞く

石田 森山 アイ

主婦業の一日休む風邪を引く

大町 小口 達子

子の生命三つつ預かる台所

三村 上野久美子

冬ごとに背中丸まるさびしさよ

上町 上野 広江

